

## [石政会]視察スケジュール

2023/07/12～14

### 7/12 (水)

6:30 市役所集合 9 名 佐藤車・鈴木車 便乗  
7:50 新千歳空港 A-2 駐車場着 \* 予約番号 佐藤9048 鈴木9014  
8:30 新千歳空港発 ANA NH52 便 /  
10:05 羽田空港着 /  
11:30 ホテルウイングインターナショナル御成門着 & 発 \* 議長合流 以後同スケジュール  
12:00 豊洲駅着 (昼食) /  
13:00 キッザニア東京 視察 \* 5,000 円/人  
16:00 豊洲駅発  
17:00 夕食 /

### 7/13 (木)

9:30 ホテル発  
10:30 桜木町駅着  
10:40 横浜エアキャビン 視察  
(中華街) 昼食  
14:30 桜木町駅発  
15:00 大和駅着  
15:10 大和市文化創造拠点シリウス 視察  
16:00 大和駅発  
17:30 夕食

### 7/14 (金)

10:00 ホテル発  
靖国神社、皇居他  
15:35 羽田空港発 JAL521 便  
17:10 新千歳空港着 10 名  
18:30 市役所帰着 10 名 佐藤車・鈴木車 便乗

宿泊場所 ホテルウイングインターナショナル御成門  
東京都港区新橋 6-20-8  
TEL: 03-3433-0122

## 行政視察報告書

1. 視察先 東京都豊洲、横浜市桜木町、神奈川県大和市
2. 視察期間 令和5年7月12日(水)～令和5年7月14日(金)
3. 参加者 石政会10名(議長含む)
4. 視察目的 横浜エアキャビン

横浜エアキャビンは、令和3年4月に開業した日本初の都市型ロープウェーである。泉陽興業が建設＆運営を行っており、横浜市の公費負担はなく逆に道路専用料が入る。

当市で検討を始めた軌道系交通機関としての都市型ロープウェーの実現可能性を深るため視察する。

同県泰野市で検討を進めている ZIP 社自走式 2 本ロープとの違いについても確認する。

5. 視察内容 横浜エアキャビンについて

所在地 横浜市中区のみなとみらい地区

走向方式 1本のロープが循環するタイプで自走式ではない。

総延長 635m

定員 8人(1キャビンあたり)

キャビン数 36台

乗車時間 約5分(片道)

キャビンには冷房(クーラー)搭載(寒冷地では暖房も可能)

イニシャルコスト 80億円

ランニングコスト 1億円以内(年間)

年間 150 万人が利用し黒字経営。

(1日最多で、11,000人～12,000人)

ロープ1本タイプは、スキー場のリフトと同じ構造のため、雪の多い寒冷地でも運行に問題がないが、公共交通となれば風にも強い(寒冷地であれば吹雪等)、2本のロープにつるすタイプでなければ運行上の安全性、運営上の安定性が確保できない。

#### 運行停止瞬間風速

ロープ2本タイプ(ZIP 社) 30m/S

ロープ1本タイプ(横浜キャビン) 18m/S

強風による運休はロープ2本タイプの倍であり、経営にはマイナスである。よって公共交通には適さないとの話であったので検討するならロープ2本タイプになろう。そのために今後は神奈川県秦野市が実証実験に取り組んでいるロープウエー(ZIP 社)の調査研究が必要と思われる。ロープウエーは用地買収が鉄塔を建てる場所だけで済むのでコスト面でも導入のハードルは下がるが、問題は採算性の確保に尽きるというのが研修の感想です。

視察先 : キッザニア  
場所 : 東京都江東区豊洲 2-4-9 アーバンドックららぽーと豊洲 1 ノースポ  
ート 3 階  
日時 : 7 月 12 日 13:00  
参加者 : 石政会 9 名

#### 視察内容

子供の職業体験施設に関して

- ① 職業体験で得られる教育効果および運営の考え方
- ② 北海道進出の可能性

石狩市内で行われた子供の職業体験イベントである『キッズシティーishikari』で多くの反響があった中、東京にあるキッザニア東京に視察を行った。職業体験を通して、子供たちが社会の仕組みを学ぶ施設であり、この度の視察では運営方法や考え方、北海道に進出する可能性などを調査した。

キッザニアはメキシコが発祥であり、キッザニア東京は日本第一号施設として 2006 年 10 月 5 日にオープンしており、日本では現在、東京、兵庫、福岡の 3 施設、いずれも『ららぽーと』複合施設内にある。運営総スタッフ数は約 2,000 人であり、子供力、大人力を養成所にて勉強したスーパーバイザーと呼ばれるスタッフもいる。学校の課外授業として約 1,400 校を訪れ、8 割はキャリア教育である。

館内はキッザニアの発祥であるメキシコをモチーフにしており、薄暗街並みとなっているが、これは子供たちに普段、出歩くことがない夜の街を体験してもらうため、仕事だけではなく大人の世界を体験し、すべての建物や乗り物も子供に合わせ 2/3 スケールに縮小して作られたものになっており、小さな子供達でも大人と同じ目線で体験できる。

子供たちだけの国の中で様々な職業体験を行うことで、本格的な大人体験を味わうことができる。参加企業は原則、1 業種 1 社であり街に必要な職業を集め、子供たちに『お金を使うことの学び』やチャレンジング精神『親から離れて自己肯定感を養ってもらう』など子供が大人の世界を体験することで将来の夢や考え方、また、普段身近なお仕事をしている大人の方々の大変さや、感謝の気持ちを持つようになったという子供の意見があるとのこと。

北海道の出店は現在考えていないとのことであるが、出向事業としてアウトオブキッザニアという、もうひとつの体験プログラムがあり、キッザニアを飛び出して、スポンサー企業の仕事や地域のさまざまな仕事を実際に体験してもらう事業とのこと

## 感想

今回のキッザニア東京では館内の見学、説明のほかに企業の方々と一室で質問、聞き取りができ大変勉強になりました。職業体験内では、銀行があり実際にキッザニアの独自通貨の入出金ができることやJCBなどカードや電子マネーもあり、ATMもあることにも驚きました。現実社会に近づけた上での体験施設であることがわかり、子供の教育に非常に良い体験だということがわかるとともに、参加企業も会社のコンセプトや思いを、職業体験を通じて発信できるという仕組みも非常に良いと感じました。

石狩市で行われたキッズシティーishikariも今後、子供教育にとってさらなる良い事業につながるよう、この度の視察してきた内容を運営団体の皆様と共有し、子供たちのための職業体験のさらなる発展にむけて邁進してまいります



■日時

令和 5 年 7 月 13 日 15:00~

■場所

大和市文化創造拠点シリウス

■視察者

石政会 9 名

■施設内容

1F

2つのホールとギャラリーを備えるフロアとなっており、アーティストによる公演や展覧会など、身近に芸術文化に触れる機会を提供。市民の手による文化活動の発表の場としても利用が可能。稼働率は100%とのこと。

カフェとしてスターバックスも有り。

2F

様々な機能が集まった市民交流のフロア、快適で落ち着いた空間を提供。

大和市イベント観光協会、大和市役所大和連絡所、市民交流ラウンジなどがあり。

3F

天候に左右されない子供向けの知力、体力を養えるフロア。

0-2歳を対象とした、ちびっこ広場。3歳-小学校2年生を対象とした専用のスタッフが在中しており様々な遊びと安全を提供できるげんきっこ広場。

4F

ティーンズ世代向けにおすすめの本や、学校生活に関連する本を取り揃えているティーンズコーナー。漫画・新聞・雑誌などを取り揃えた健康都市図書館のフロア。

5F

レファレンスカウンターがあり、調べ物をサポートするフロア。

6F

生涯学習センター。交流スペースと講習室、7つの会議室を備えるフロア。

■所管

大和市文化創造拠点シリウスは、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設。

6社からなる複合施設で全館図書館となっており、年間で約300万人に利用があり、2/3が市民の利用者。

また、大和市は給食費無償化や子供の医療費の無償化など子供施策に力を入れていた結果、子育て世帯(20代から40代の世帯)の人口増加率が伸びている。

大和市は面積約27km<sup>2</sup>の中で人口24万人を超えており、駅の沿線上であるため、石狩市で同じ事をやろうとするのは現時点では難しいが、文化ホールだけだと閑散としてしてしまうとのことで、複合施設として全館図書館とし、様々な市民が集まりやすい場の提供は重要だと感じた。

●秋田県能代市・男鹿市会派視察行程表（令和6年3月27日～3月28日）

|       | 時間    |        | 場所         |
|-------|-------|--------|------------|
| 3月27日 | 9:00  | 市役所出発  |            |
|       | 9:50  | 丘珠空港到着 |            |
|       | 10:40 | 空港出発   |            |
|       | 11:45 | 秋田空港到着 |            |
|       | 12:30 | 昼飯     |            |
|       | 13:30 | 出発     |            |
|       | 14:30 | 視察1    | 能代市：洋上風力発電 |
|       | 16:00 | 視察終了   |            |
|       | 17:30 | ホテル着   |            |
|       | 19:00 | 夕食     |            |
|       |       |        |            |
| 3月28日 | 10:00 | ホテル出発  |            |
|       | 12:00 | 昼飯     |            |
|       | 14:00 | 視察2    | 男鹿市：訓練センター |
|       | 15:00 | 視察終了   |            |
|       | 17:00 | 秋田空港   |            |
|       | 18:50 | 秋田空港出発 |            |
|       | 19:55 | 丘珠空港着  |            |



## 石政会 行政視察報告書

### 【能代市洋上風力発電】

日 時：令和 6 年 3 月 2 7 日

視察先：秋田県能代市洋上風力発電設備

視察者：花田議長、伊藤・日下部・高田・山田・鈴木・山本(健)・青山

各議員 総数 8 名

【視察目的】 洋上風力先行地域である秋田県能代市に赴き、港湾区域内における洋上風力 発電事業および一般海域における洋上風力発電事業へ向けての取り組み状況 ならびにこれらがもたらす地域への波及効果について検証する。

### 【視察内容】

秋田県能代市は人口 4 万 9 千人(2 万 4 千世帯)、日本海に面し冬季は特に風の 強い地勢である。 この風を再生可能エネルギーの資源として平成 25 年に風力発電の導入を始め、 令和 4 年には全国初の港湾内洋上風力の商業運転を開始、一般海域での洋上風力促進区域の指定と事業者選定も済んでいる事とあわせ、全国の中でも地 域資源のエネルギー化に先進的な取り組みを進めている市である。

・ 能代市の再生可能エネルギー発電設備状況

風力発電 51 基約 148 千 Kw（うち洋上 20 基約 84 千 Kw）

太陽光発電 約 13 千 Kw

バイオ発電 約 4 千 Kw

・洋上風力の地域波及効果 経済波及効果(秋田・能代港、一般海域) 約 3,800 億円

雇用創出効果(秋田・能代港、一般海域) 約 37,000 人

・観光資源としての可能性 前年度 15 団体 155 人（観光協会を通しての視察者のみ）

・洋上風力発電はゼロカーボンに寄与することはもちろん、設備に関わる建設、運転、メンテナンスによる経済波及効果、雇用創出効果が見込める。

市民にわかりやすくメリットを知らせるためにも現況にあわせた再試算と情報発信が必要。

・再生可能エネルギーの発電方法は太陽光・バイオマスと種々あるが、当石狩市にとっては風力が最も効率が良いと認識した。中でもフィンが大型化できる洋上風力が最適である。

・洋上風力の資材保管スペース(地盤強化含む)が必要であるが、新港で準備されているか確認する必要がある。

・今後増える関係者の視察、市民の風力発電に対する環境意識の醸成をはか

るためにも港湾内や新港全体を見渡せる展望台が必要と考える。また、打

合せができるスペース確保や宿泊施設の誘致も必要である。

(視察受入担当者)

能代市 エネルギー産業政策課 課長 浜野 隆司 係長 米村 洋志 能代観光協会 珍田

泰彦 以上

■ 視察日時

2024 年 3 月 28 日 14:00-15:00

■ 視察者

議長+石政会 7 名 計 8 名

■ 視察先

風と海の学校あきた

## 施設概要

洋上風力発電事業に関する訓練センター。

産官学連携の下、旧男鹿市立船川南小学校の一部を活用し風車技師向けの GWO 基本訓練、船員向けの STCW 訓練、最新型シュミュレータを使った操船訓練を 2024 年 4 月から提供が始まる。

## 海の間

最新の航海シュミュレータが設置されている部屋。

廊下の窓には大きな窓が設けられており、通路からシュミュレータを眺めることができる。

シュミュレータを男鹿海洋高校の生徒や、近隣の小中学校へ開放することにより、海自産業への興味や関心を高める事も目標とされている。

## 風の間

男鹿の森をイメージして白と緑を基調として作られた一室。

大人数での講習に対応する部屋、また可動仕切りにより訓練、講習の際の座学、休憩室などに二室での同時利用も可能。

## プール

訓練が行われるプールで、温水管理されており年間を通じて利用できる。

10m の水深を有しており飛び込み訓練も可能。

GWO より認定を受けている風車への移動模擬設備にて移乗訓練も実施可能。

## 所感

男鹿市の人口としては石狩市よりも半分ほどの約 2、7 万人ほど。

最新の設備を導入し、現状は需要過多だが未来に向け人材育成に力を入れている。

風力発電事業を進める上で人材の育成、確保は必要なものであり、

学生のうちから身近にその業務と接するのは意味のあることと感じた。

また全国からの来客も見込め、市としての集客にも影響があり、

訓練学校があるということで様々な経済効果が見込めると考えられる。